アフリカの今

県人支援の現場から

ザンビア編③

サッカー場造りたい

校長の夢

「遠い所をようこそいらっしゃいました。私がこの学校の校長です」

吉野川市山川町のNPO法人TICOがザンビア農村部のモンボシ地区に開設した診療所から、さらに奥地へ約8キロ。四方を草原に囲まれたンコンジェ村のコミュニティースクールで、トレバー・シアドゥンカさん(48)が穏やかな声であいさつしてくれた。

畑仕事を終えて校舎に戻ったところだった。聞くと、村長の畑の草取りを手伝い、小遣い稼ぎをしていたという。

「授業の合間にアルバイト?」と驚いたが、学校不足を補うために地域住民が運営しているコミュニティースクールは、公立校と違い教員の給与も住民が支払う。農業が中心のンコンジェ村では、収穫の悪い年は支払いが滞ることもある。やむを得ず、生活の足しにしているのだろうと納得した。

シアドゥンカさんに案内された校舎は、子どもたちであふれていた。彼と妻のウィニーフリーダさん(37)ら教員4人が、小学1~7年生までの約600人を教えている。

立派な造りの校舎2棟は公益社団法人セカンドハンド(高松市)の資金協力を得て、TICOが2012年夏に建設。トイレ5棟と教員住宅も新築した。

01年建設の旧校舎はかやぶき屋根の1棟で、机やいすもなかった。教室が手狭なため、強い日差しの中で青空授業を強いられることもあった。

7年生のメディスン・チサンガ君(15)は「前の校舎は砂ぼこりでせきをしやすかったけど、今はとても快適だよ」と白い歯をこぼす。

改築工事は専門業者に外注するのではなく、住民参加型で行った。村で選ばれた大工が建設の指揮を執り、村人たちが焼いて作ったれんがを資材に使った。

「既製品の資材を買ってくるのは簡単ですが、それでは村人たちの手で補修ができない。工期は遅れましたが、この方法で良かったと思います」。同行したTICOザンビア事務所の瀬戸口千佳さん(29)=神戸市出身=は、感慨深げに校舎を見上げた。

授業風景を見せてもらった。子どもたちはいすに腰掛け、机の上に真新しい教科書を広げている。吉野川市の森山小学校と美馬市の木屋平中学校からの寄付で購入された教科書だった。

シアドゥンカさんは「最新のカリキュラムに沿った物をそろえた。使い古しの教科書を使っていたころに比べ、教育水準も上がりました」と喜ぶ。卒業生が教員免許を取得し、学校に戻ってきてくれる環境づくりが目標だという。

徳島の小中学校の寄付で購入した教科書を広げ、シアドゥンカ校長(左端)の授業を受ける子どもたち=ザンビアのンコンジェ村

もう一つ、シアドゥンカさんには念願があった。「運動場にサッカー場を整備して学校対抗の大会を開きたい。子どもたちはサッカーが大好きですからね」

しかし、ハード面でのTICOの支援は終了した。資金確保は大丈夫なのだろうか。

「そのために時間を見つけて畑仕事をしているんですよ。まだ1月から始めたばかりなので、道のりは遠いんですが」

生活のためのアルバイトと早とちりしたのが恥ずかしくなった。運動場を見ながら笑うシアドゥンカさんの目の前には、サッカー場の姿がはっきりと浮かび上がっていたのだろう。(藤長英之)

悪質商法 撃退しよう

県、消費者教育を充実

講座再編 相談員を認定

徳島県は、悪質商法に

消費者大学校(6月下

講座内容にする。

90人・10団体登録)に助

NIE

教育に新聞を

授業の指導案作成

本社セミナーで教員ら

新聞記事を活用した授業方法について学ぶNIEセミナー(徳島新聞社主催)が5日、徳島市の新聞放送会館で開かれ、小学校教員や鳴門教育大生ら4人が参加した。

さん

参加者は2班に分か

鳴門教育大3年の吉原美悠さん(20)は「新聞の中にはたくさんの情報があり、いい教材になることが分かった。この夏の教育実習でも新聞を使った授業に挑戦したい」と話した。(藤長英之)

交通死亡事故や